



日本慢性疾患重症化予防学会 第6回 年次学術集会

シンポジウム①

糖尿病透析予防の地域展開に向けて

～透析予防地域システムと高度腎機能障害患者指導加算（100点）医療機関（専門医療機関）～

場所：兵庫医科大学 平成記念会館

座長：座長 大館市立総合病院 内科 池島 進先生

市立八幡浜総合病院 内科 酒井 武則先生

日時：令和2年2月15日

⑤事例紹介と総合討論：100点加算
はこうやる！自院の取り組みの紹介

徳島県立中央病院 糖尿病・代謝内科 白神敦久



徳島県立中央病院



病床数 460床

一般病床390床 (ICU10床、HCU30床)

結核病床5床、感染症病床5床、精神病床60床

外来患者数 135,899人/年(1日約557.0人)

平均在院日数 9.9日

へり出動件数 497件/年(1日約1.4件)

年間手術件数 5,373件/年(1日約14.7件)

救急患者総数 15,217人/年(1日約41.7人)件

救急搬送数 5,192台/年(1日約14.2台)

スタッフ

白神敦久(平成7年卒)

森本佳奈(平成25年卒)

病床数 7床

年間入院数 100前後

外来 月360人程度

総予約数 520人程度

共診 (院内コンサルト) 20人程度

新病院運営の基本コンセプト

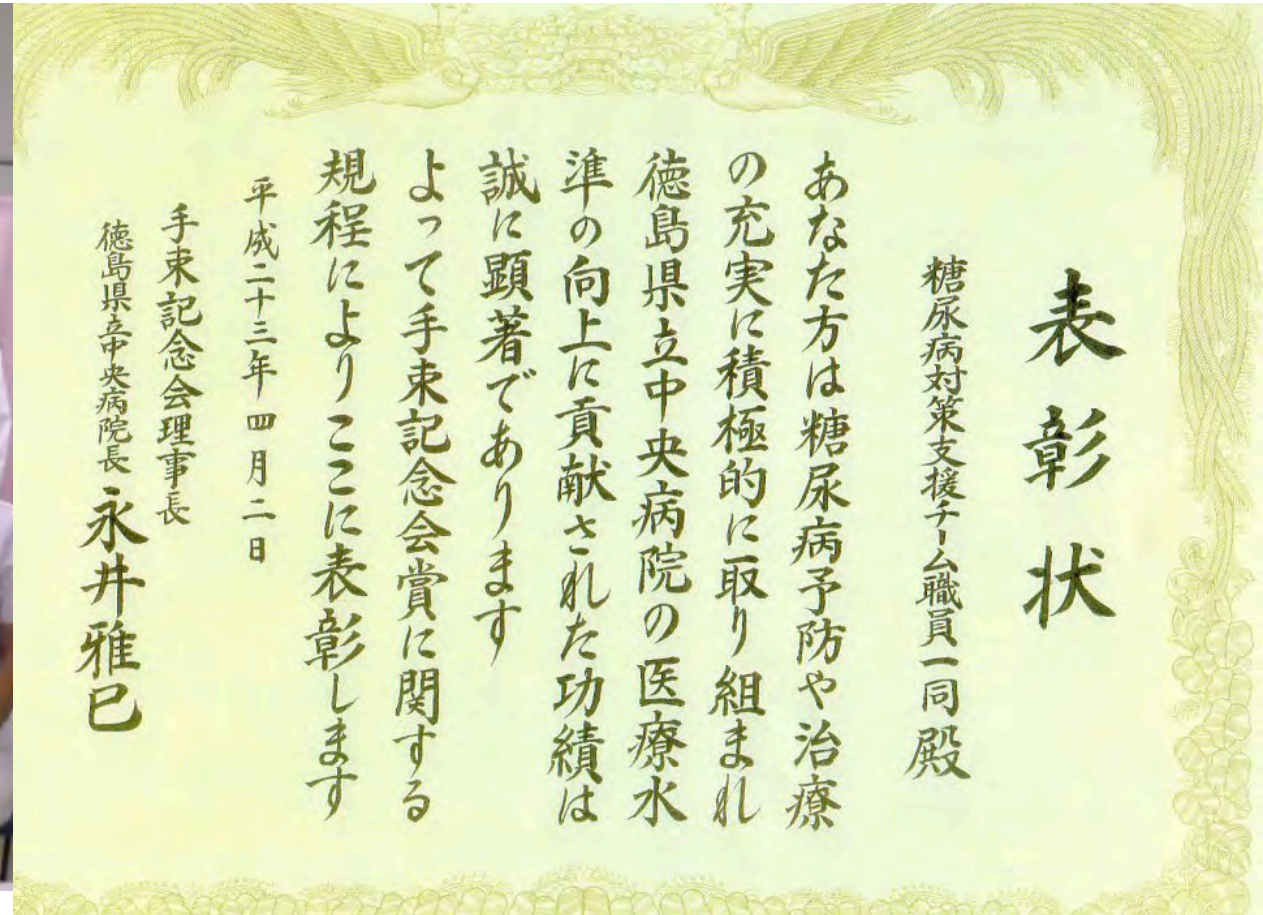
- 救急・がん・小児周産期・精神に特化
- 研修教育、災害医療
- 入院部門・手術中心の運営
- 外来は原則紹介のみとし、縮小する。



徳島市医師会・佐古・加茂名地区医師会臨床懇話会
H24.8.23 「新しい徳島県立中央病院」 永井雅巳より

徳島県立中央病院
平成23年

糖尿病対策支援チーム



当院糖尿病透析予防の経緯

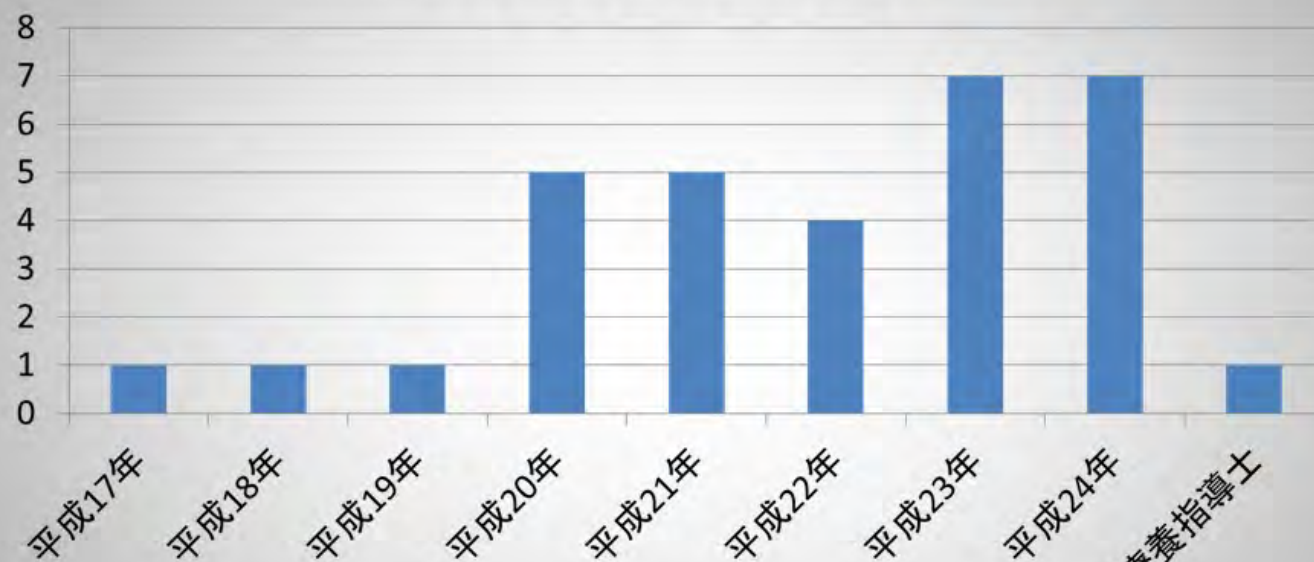
- 平成24年度より糖尿病透析予防指導管理料が保険点数として認められる。
- どのようなことをして良いか全くわからず。当院で導入検討するも遅々として進まず。
- 平成24年4月 竹谷管理栄養士転勤、原田外来看護師さん移動
- 平成24年9月 新病院になり病棟再編、糖尿病担当病棟へ旧スタッフは0人



当院糖尿病透析予防の経緯

- 平成24年度より糖尿病透析マテ北海道医師が10除と数として認められ
- 平
- ど
- 遅
- 平
- 平は

さらに新病院となり 糖尿病療養指導士



外来、病棟に携わる療養指導士



当院の透析予防指導の経緯

- 平成25年
- 平成25年1月17日 糖尿病医療連携カンファレンスにて平井愛山先生のご講演
- 3月11日東金病院のスタッフによるご講演
- 3月21日糖尿病透析予防指導管理料組織的算定のための実践ワークショップに参加
- 管理栄養士宮本さんを中心に、栄養課、外来看護師らが協力しカリキュラム、ワークフローを作成
- 7月に始動

当院糖尿病透析予防の経緯

- 平成26年4月 作製の中心だった宮本管理栄養士が保健所に移動
- 平成26年9月5日 疾患管理MAPを入手
- 平成27年1月12日 MAP導入倫理委員会で承認
- MAP導入につき当院院長、事務局次長と相談
 - 倫理委員会へ提出を指示
- 倫理委員会へ提出
 - 解析対象全例に同意書取得義務を課せられる。
- 平成27年2月13日 第1回日本慢性疾患重症化予防学会のシンポジウムにて疾患管理MAPの使用経験を発表



平成24年4月～平成28年3月まで

- メンバーが一斉に変更
- 業務内容がうまく把握できていない
- 糖尿病療養指導士など能力のあるスタッフがほとんどいない
- 有効なツールがあるが、それも使いこなせていない

当院糖尿病透析予防の経緯



- 平成28年3月24日 糖尿病性腎症重症化予防に係る連携協定
- 平成28年4月 腎不全加算が保険点数として承認
- 平成28年5月26日 徳島県透析予防勉強会 平井先生講演
- 糖尿病チームから看護師、管理栄養士、理学療法士、検査技師を召集しワーキンググループ、通称MAPチームを結成

MAPチームのワークフロー

- 毎月の患者さんのデータを診療情報管理士が疾患管理テンプレートに1ヶ月のデータをインポート
- その結果をみてeGFRが $7\text{ml}/\text{min}/1.73\text{m}^2$ 以下に到達する日時順にソートし、それを元に新規介入者を提案。医師を中心に介入者を決定
- 対象者は初回指導時にソルセイブを用い塩味閾値を測定
- 対象は早朝第一尿を持参いただき、推定塩分摂取量をチェック、看護師、管理栄養士同席で指導
- 4期の患者には、理学療法士よりレジスタンス運動を指導

糖尿病透析予防指導の風景

漬け物が好きで止めれ
んのよ

膝が痛くて最近運動し
てない



診察室の一室で行います
可能な限り、看護師と一
緒に指導を実施



メリット

- ・ 指導の度に移動しなくていい
- ・ 何度も同じ説明をしなくていい
- ・ 疑問点を専門スタッフがすぐ答えてくれる

タブレットPCを用いた運動療法指導

筋力トレーニング (痛みのないかた)

戻る

ハーフスクワット	フロントランジ	サイドランジ
 <p>ハーフスクワット</p>	 <p>フロントランジ</p>	 <p>サイドランジ</p>
ヒールレイズ	足指運動	
 <p>ヒールレンジ</p>	 <p>足指運動</p>	

タブレットPCを用いた運動療法指導



MAPカンファレンス 月1回開催

参加メンバー

医師 看護師 管理栄養士
理学療法士 臨床検査技師

ワークフローの確認
各部署での問題点抽出

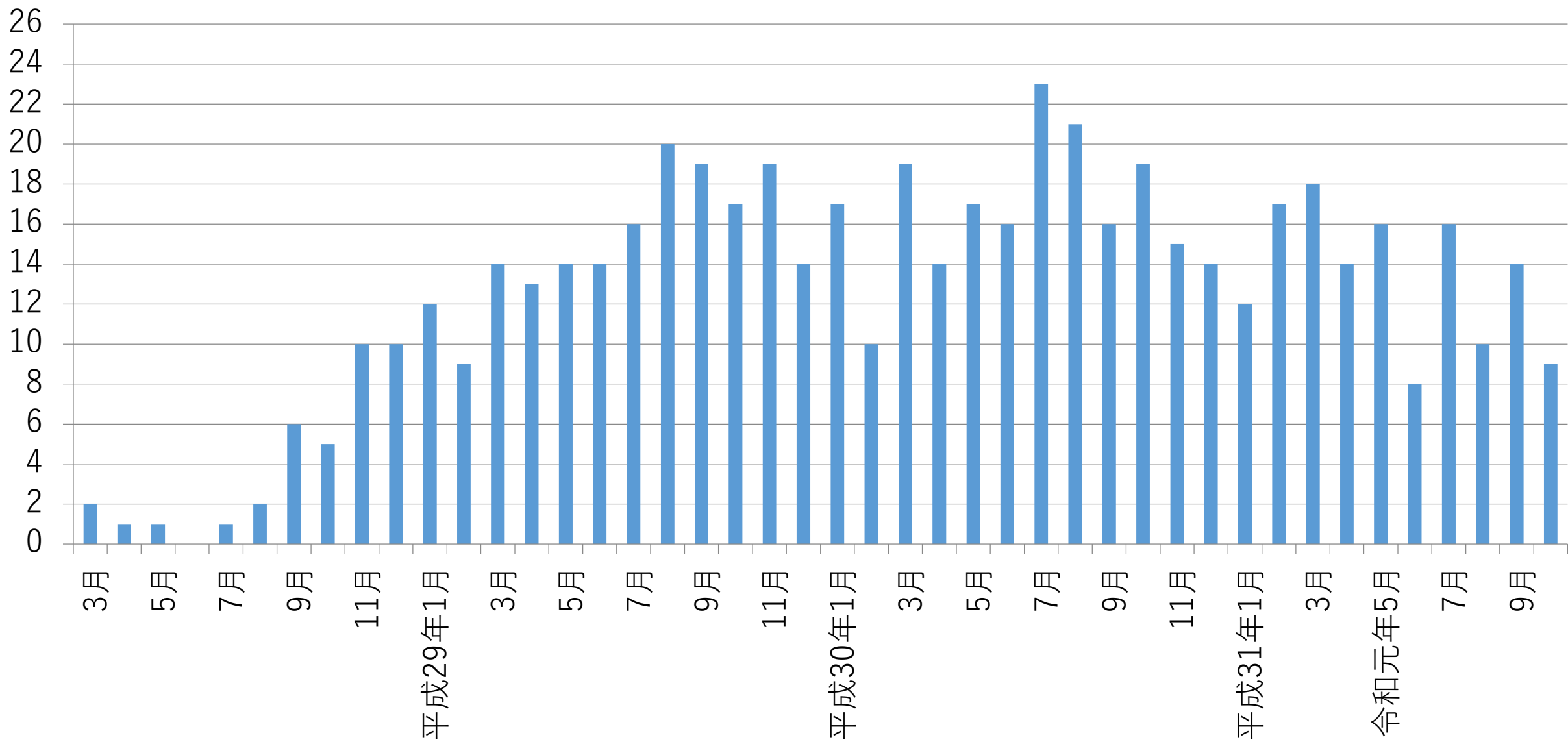
介入患者カンファレンス

$\Delta eGFR$ を元に新たに導入する患者の検討
問題点へのアプローチ 電子カルテを見ながら、
理学療法士の介入の有無

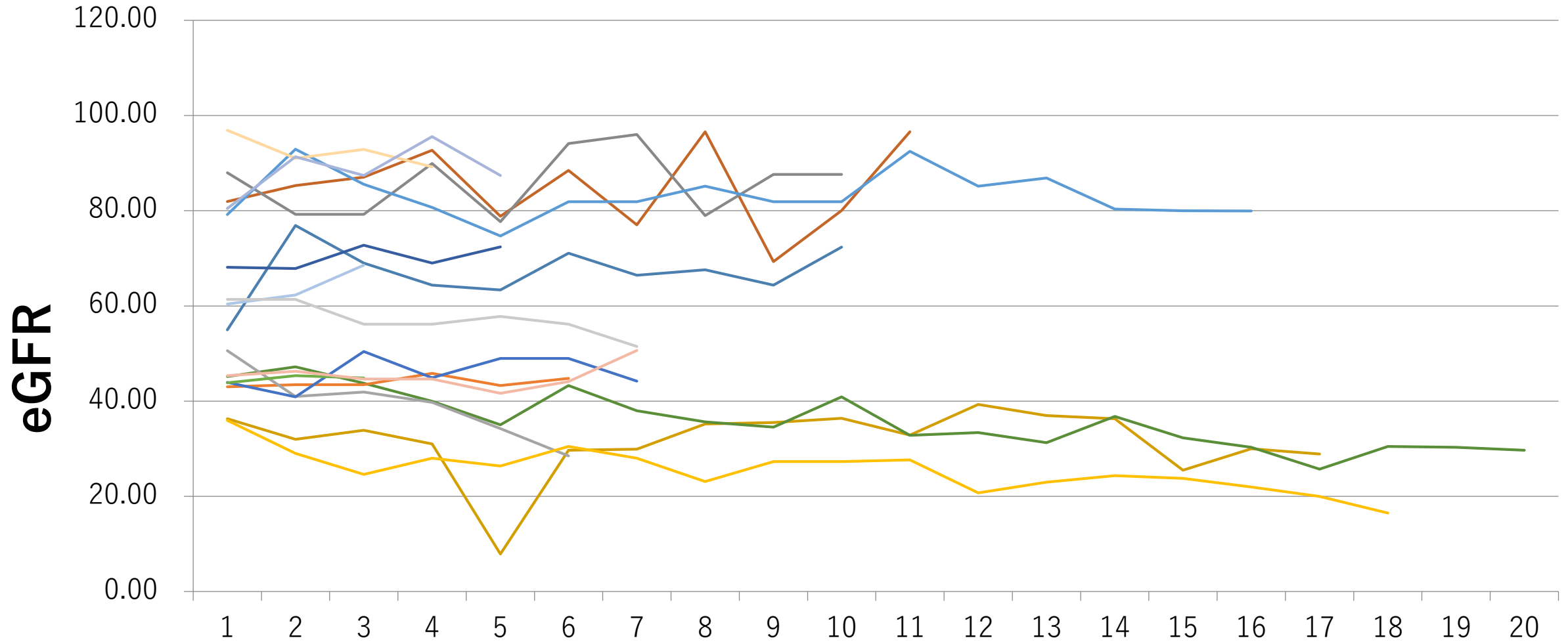


- 月1回の会議にて、介入中の患者のeGFR、尿蛋白、アルブミン値、推定塩分摂取量などの経緯を確認。困難症例に対しては、その場で電子カルテを見ながら、ディスカッションを行う。

当院の透析予防管理指導料算定件数

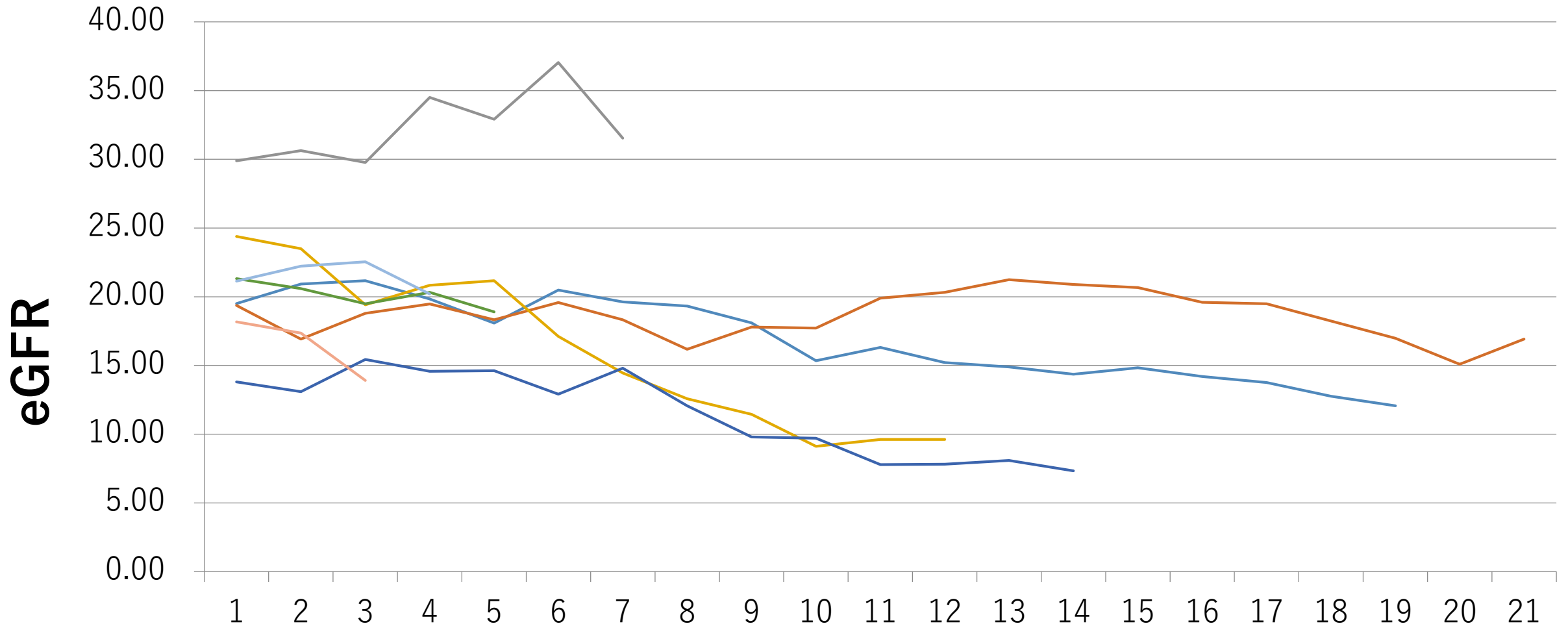


3期腎症



おおむね横ばいで経過しているが、eGFR<40では徐々に低下傾向

4期腎症



徐々に低下傾向ではあるが4期を長期間維持できている

JMAP方式導入で得られたこと

- メディカルスタッフたちで対象を見つけ、問題点を『見える化』できる
- 対象患者に指導をすることで、どの程度良くなっているかが、『見える』
- 患者と一緒にになって改善を『見る』ことで、指導のモチベーションが向上する
- 医療チームが同じ方向を『見る』ことができ、ベクトルが統一される

令和元年9月 100点加算認定！

- ですが。。。。。
- 令和2年2月 100点加算 より離脱。
- ただ、これを機に診療情報管理士さんをチームに入れてもらう。

今後の展望

- いつまで、どの程度関与していくか
- もっと良い指導を
- さらに広いMAPを
- 保健師さんや行政、地域との連携
- 技術移転、徳島県立三好、海部病院など

変革を成功させる八段階のプロセス

1. 危機意識を高める
2. 変革推進チームを作る
3. 変革のビジョンと戦略を立てる
4. 変革のビジョンを周知徹底する
5. 行動しやすい環境を整える
6. 短期的な成果を生む
7. さらに変革を進める
8. 新しい文化を築く



ご清聴ありがとうございました



平成30年11月3日 県民公開講座にて